

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第36週（9月2日～9月8日）

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに増加」

第36週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,787例であり、前週比12.2%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナの順で、定点あたりの報告数はそれぞれ3.86、3.58、1.57、1.41、1.26であった。

感染性胃腸炎は前週比4%減の756例で、南河内7.31、中河内4.70、三島4.41、豊能4.14、北河内3.85である。

RSウイルス感染症は前週比50%増の701例で、大阪市西部6.22、大阪市北部5.92、堺市5.11、南河内4.81、大阪市東部4.27であった。

手足口病は前週比8%増の308例で、南河内3.75、大阪市北部2.23、三島1.77である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比6%減の276例で、南河内2.88、大阪市南部2.11、北河内1.82であった。

ヘルパンギーナは前週比30%増の246例で、南河内2.25、大阪市北部2.23、中河内1.85である。

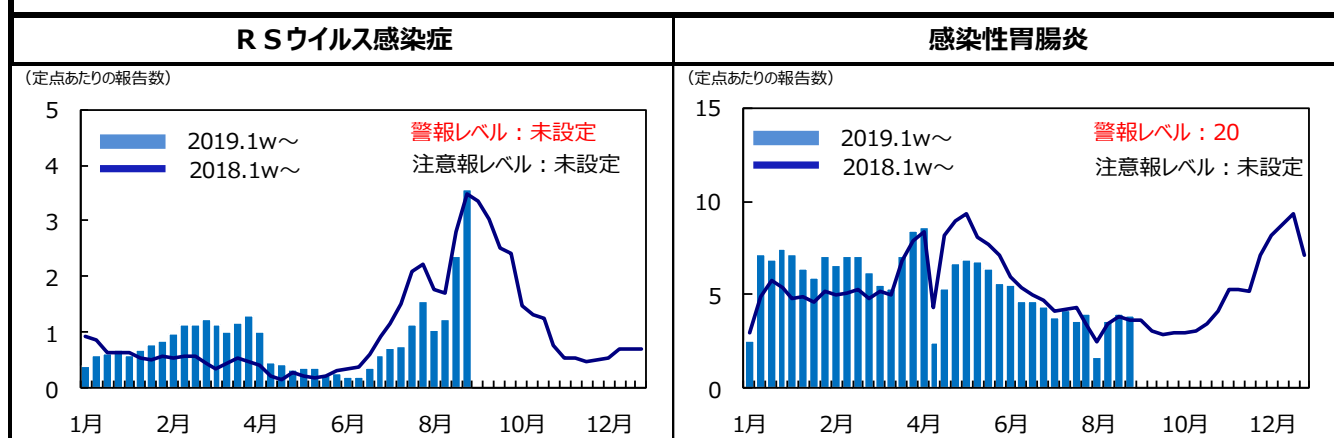


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第36週9月2日～9月8日）

第36週の順位	第35週の順位	感染症	2019年 第36週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第36週の 定点あたり 報告数	2019年第36週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.86	4%減	3.67	1歳_18%
2	2	RSウイルス感染症	3.58	50%増	3.49	1歳_40%
3	4	手足口病	1.57	8%増	0.72	1歳_25%
4	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.41	6%減	1.40	4歳5歳_14%
5	5	ヘルパンギーナ	1.26	30%増	1.47	1歳_28%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.27	224%増	0.05	10-14歳_20%

第36週のコメント

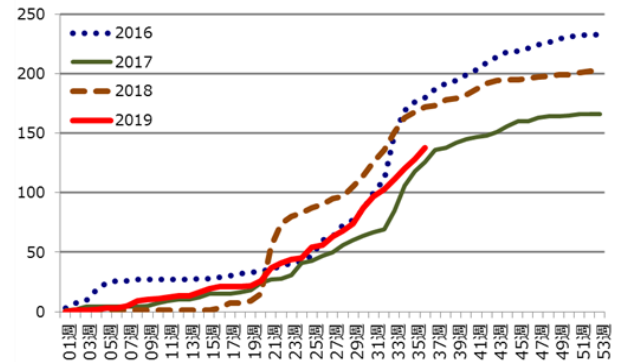
～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期において、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。

(累積報告数)



[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[腸管出血性大腸菌感染症とは\(国立感染症研究所\)](#)

表2. 大阪府全数報告数（2019年 第36週9月2日～9月8日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています)

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症										
細菌性赤痢 (<i>S. sonnei</i>)	2							2		7
腸管出血性大腸菌感染症	10	2	6			1			1	138
4類感染症										
A型肝炎	1								1	17
デング熱	2								2	37
マラリア (熱帯熱)	1			1						3
レジオネラ症 (肺炎型)	6	1	1	1				1	2	81
5類感染症										
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1								127
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1					42
後天性免疫不全症候群	1	1								81
侵襲性肺炎球菌感染症	1	1								188
梅毒	6			1	1				4	719
百日咳	15	3			1	2	2	3	4	641
結核 (2019年7月分)	結核 新登録患者数：146名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 57名) (府内累積報告数 984名、内 肺・喀痰塗抹陽性 380名)									

(2019年9月10日 集計分)